



茶

HIGASHIYAMA

茶文字の里

世界農業遺産

静岡の茶草場農法



GIAHS
世界農業遺産とは…

茶草場農法が育む東山の自然

毎年行う晩秋の草刈りと搬出作業が、茶草場を多様な生物の生育・生息する特別な場所に育て上げています。地域の固有種や全国的に数が減っている動植物も茶草場で確認されています。



世界農業遺産
静岡の茶草場農法を
動画で見る

ここ掛川市北東部に位置する東山地区では、茶農家によって維持管理された茶畑周辺の半自然草地のことを古くから「茶草場」とよんでいます。かつては日本各地で見られた半自然草地は、時代の変化に伴って減少し、その草地を住みかとしていた多くの動植物のなかには絶滅に瀕している種類もあります。しかし、当地域では150年以上も前から良質茶の栽培を目的に、茶農家の方々が手間ひまかけて、草を刈り、草を敷く農法を続けてきました。このお茶づくりにこだわる思いが、全国から失われつつある里山の草地の生物多様性の維持に役立ってきました。

東山の茶草場面積は

何と! 130ha

東山の茶畑の周りには茶草場と呼ばれる、大小さまざまな草地があることにお気づきですか?
東山地区の茶草場は茶園面積180haに対し、7割に当たる130haと広大です。

茶草場は
生き物の
宝庫

東山の茶草場には可憐な草花や、カケガワフキバッタなどの
珍しい昆虫・動植物がたくさん暮らしています。



フジタイゲキ ●開花時期／5月下旬～7月中旬
静岡県だけに见られる固有亜種。以前は県下の草原に広く生育地があったが、今では粟ヶ岳などの茶草場の3ヶ所にしか生育地は見つかっていない。一年に一度草刈りをする茶草場が、この植物を守ってきた。



カケガワフキバッタ ●6月下旬～11月上旬
静岡県の大井川と天竜川にはさまれた地域にしかいないバッタ。翅が退化して飛べないので地域により独特な種ができた。ススキの茶草場で見られ、学名に粟ヶ岳の名前がついている。



カモシカ ●一年中
ウシの仲間。目の下のこぶのような眼下腺からでる甘いにおいを木にこすり付けて縄張宣言をする。茶草場の周辺では、茶草を刈った11月から4月頃までは見る機会が多くなる。



ハルリンドウ ●開花時期／3月下旬～4月
日当たりのよい湿り気のある草地に生える二年草。太陽の光があたると花を開き陰ると閉じる。高さが10cm程の小さな植物なため、毎年草刈りをしてその草を外に運び出さないとなくなってしまう。



ササユリ ●開花時期／5月～6月上旬
日本の固有種で、万葉集にも詠まれ古くから多くの人に親しまれてきた。このユリは種ができてから花が咲くまでに7年かかるため、毎年草刈りをしてその草を外に運び出さないと、なくなってしまう。



キンラン ●開花時期／4月～5月
明るい林や草地に咲くランの仲間。光沢のあるレモンイエローの花は金色に輝いているように見える。根に共生する菌類から栄養分をもらって育つので人工栽培は難しい。



オカトラノオ ●開花時期／6月～7月
小さな花が花茎の一方に並んで咲く。下から順に咲いてゆくと花を長く楽しめる。花の形が絵に描かれた虎の尾に似ていることから付いた名前。



ホタルブクロ ●開花時期／6月下旬～7月
「提灯花」とよぶ地方もあるように、白色や淡紅色の袋状の花が並んで咲く。提灯は火を垂れ下げて（火垂る＝ほたる）使うので、提灯のような袋がぶら下がっているように見えるから付いた名前。

お願い! この地に自生、生息する動植物は、たとえば雪国の人たちが山に浮かぶ残雪の形で田植えの時期を知る、というように私達にとっては季節の訪れを知らせてくれる大切な友達です。みなさんもこの友達を大切に思い、見守っていただけたら幸いです。



茶草場



⑥ 截断した茶草を畝間に敷く



⑦ 畝間に敷かれた茶草



茶園の周りに点在する茶草場(写真は夏期)

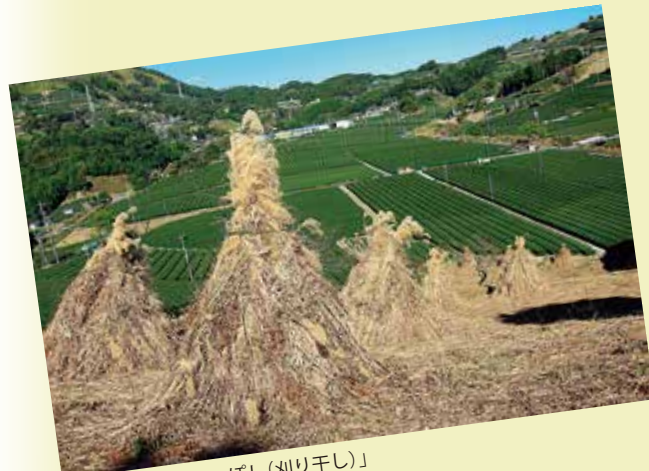
世界農業遺産 静岡の茶草場農法 in 東山

茶畑の景観は、静岡を代表する農村の風景です。当地域では、農家が晩秋から冬に、この茶畑周辺の採草地の「ススキ」や「ササ」などの草を刈り、乾かした後、細かく刻んで茶畑の畝間に敷く茶草場農法が継承されています。

近代化された茶生産の中で、より良質なお茶を生産しようとする茶農家の努力により、茶草場の生物多様性が保全されてきたことが高く評価され、「静岡の茶草場農法」として2013年に世界農業遺産に認定されました。



⑤ 茶草を截断する



④ 茶草の乾燥「かつぼし(刈り干し)」



③ 刈られた茶草場



① 秋、草が生い茂る茶草場



② 秋から冬にかけて刈取



茶草場の作業風景を
動画で見る



おいしいお茶を守り続ける
人々を動画で見る

